

5 有収率向上対策

水資源の有効活用及び経費の削減を目的に、有収率向上対策として次の取り組みを行っている。

- (1) 漏水調査による早期発見と即時修理
- (2) 老朽管の布設替
- (3) 配水ブロック、減圧弁による適正水圧の管理
- (4) 配水管理システムのデータ解析による効率的な漏水調査

有収率の推移

(単位: %)

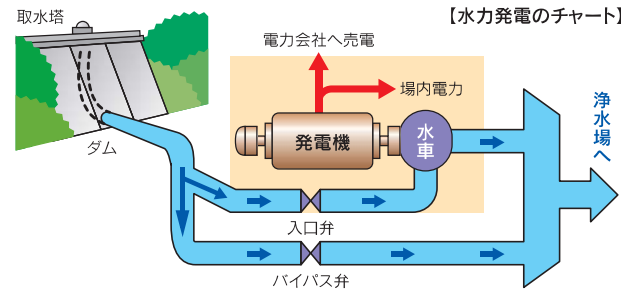
年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
計画	88.2	88.3	88.2	88.4	88.6	90.2	90.5	90.8	91.1	91.4	91.7
実績	87.3	86.6	87.6	88.0	89.2	90.4	90.0	90.4	90.6	90.2	-

6 中小水力及び太陽光発電所の建設

水道施設にて発生するクリーンな水力エネルギーの有効活用を図るため、ダム取水の落差等を利用した水力発電所を稼働している。

まず測及び油木発電所、丸山小水力発電設備の発生電力は、余剰電力を電力会社に売電し、頓田発電所では本城浄水場内、穴生発電所では穴生浄水場内ですべて活用されている。

また、太陽光エネルギーを利用した太陽光発電所を建設し、新たなクリーンエネルギーの有効活用も図っている。



水力発電所

項目	まず測発電所	油木発電所	頓田発電所	穴生発電所	丸山小水力発電設備
最大出力[kW]	520	780	68	340	9
年間可能発生電力量[万kWh]	214	335	36	132	6
稼働日	平成6年4月	平成8年4月	平成10年4月	平成19年4月	平成26年8月

太陽光発電所

項目	藍島太陽光発電設備	紫川太陽光発電設備	大蔵・小嶺・日峰・二島太陽光発電設備	笹尾・堀越太陽光発電設備	丸山・永犬丸太陽光発電設備	血山・小熊野太陽光発電設備	山ノ神第2太陽光発電設備	畑第2太陽光発電設備
最大出力[kW]	12.7	150	9.5	9.7	9.5	20.3	21	31.5
年間可能発生電力量[万kWh]	1.4	16.8	0.9	0.9	0.9	2.0	2.0	2.9
稼働日	平成10年10月	平成11年4月	平成22年2月	平成23年2月	平成24年3月	平成25年10月	平成26年9月	平成26年9月

太陽光で発電した電力は自家消費し、余剰電力は電力会社に売電している。



藍島太陽光発電



紫川太陽光発電

7 財政状況

1 財政の概況

平成30年度は、平成28年4月に策定した「上下水道事業中期経営計画(H28～R2)」に基づき、着実に事業を実施することで、インフラの維持・強化や新たな広域連携の推進に取り組むと同時に、健全かつ安定的な事業運営の構築にも努めた。

事業面では、「災害等の危機管理対策」、「経年施設の長寿命化・更新」、「安全・安心でおいしい水の供給」、「環境負荷

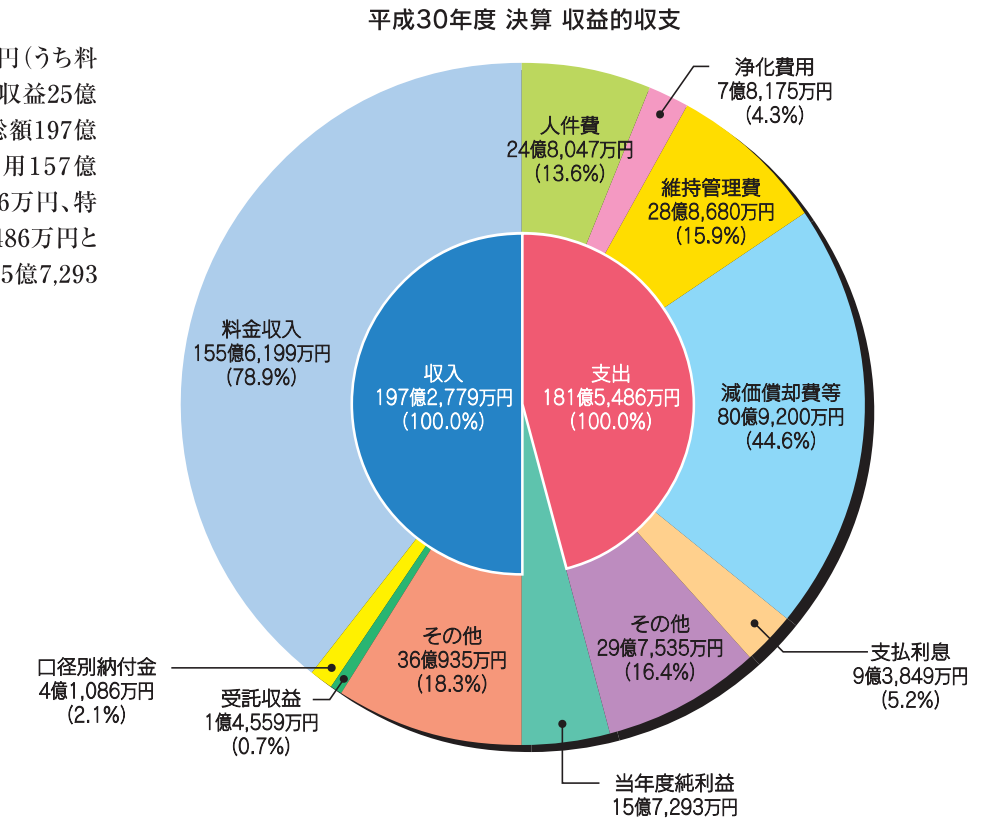
の低減」、「国内外に貢献する上下水道」について特に重点的に取り組んだ。

財政面では、単年度資金収支は、2億4,065万円のマイナスとなったが、累積では建設改良基金積立を含め80億2,670万円の資金剰余を確保し、引き続き安定経営を維持している。

2 平成30年度決算(税込)

(1) 収益的収支

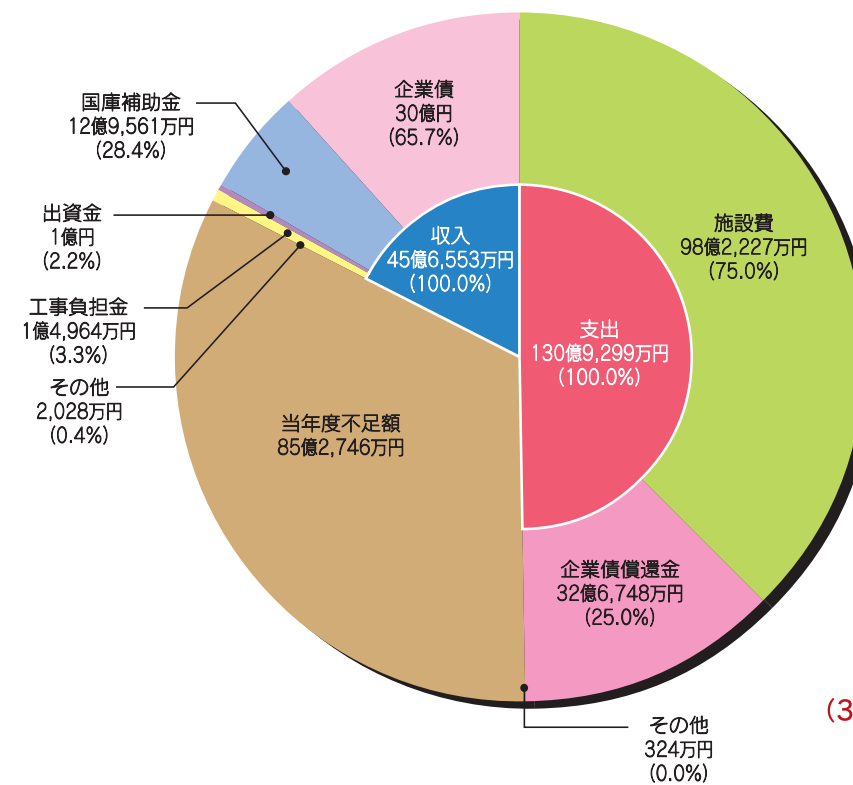
収入は営業収益171億4,719万円(うち料金収入155億6,199万円)、営業外収益25億7,330万円、特別利益730万円で総額197億2,779万円となり、支出は営業費用157億8,630万円、営業外費用23億1,106万円、特別損失5,750万円で総額181億5,486万円となった。この結果、平成30年度は15億7,293万円の利益が生じた。



(2) 資本的収支

収入は企業債30億円、国庫補助金12億9,561万円、出資金1億円等で収入総額45億6,553万円となり、支出は施設費98億2,227万円、企業債償還金32億6,748万円等で総額130億9,299万円となった。この結果、収支差引では85億2,746万円の不足となった。

平成30年度 決算 資本的収支



(3) 資金収支

資本的収支による資金不足額85億2,746万円を損益勘定留保資金等で補った結果、単年度資金収支は2億4,065万円のマイナスとなり、平成30年度末の累積資金剰余は60億3,655万円を確保した。